日頃から災害に備えることの大切さを教えてくれる

「大地震両川口津浪記の碑」

●大地震両川口津浪記の碑

浪速区幸町。大阪ドームにほど近い、木津川にかかる大正橋北側・東詰※に、「大地震両川口津浪記の碑」があります。歴史を遡ること151年前、1854年（嘉永7年）11月5日に発生した安政南海地震による大津波の被害を後世に伝えるため、1855年（安政2年）に建立されました。今も訪れる人が絶えないこの碑は、日頃から災害に備えることの大切さを、私たちに教えてくれています。

●1830年作成の古地図

※現在は堤防工事のため、少し離れた北側の場所に一時移転中。
2006年初旬に元の位置に戻される予定です。

過去の教訓が生かされていなかった、大地震後の「大津波」被害

当時、大阪は連続的に地震に見舞われていました。1854年（嘉永7年）6月14日と、大津波が襲う前日の11月4日にも安政東海地震が発生。人々は余震を恐れながら、不安な夜を明かしたといいます。実は、この震災から遡ること148年前の1707年（宝永4年）10月4日にも大地震が発生しています。津波の被害はすでに経験すみのはずでした。しかし、長い時間の経過で、伝え聞く人がほとんどいなかったため、"地震の後に津波が来る"という教訓が生かされることなく、再び被害を招いてしまったのです。"揺れても水の上なら大丈夫だ"と、小舟に乗り避難する人も多勢いたといいます。

そうした状況下において、翌11月5日に安政南海地震が発生。家々は崩れ落ち、混乱して火災が発生する中、雷のような轟音とともに大津波が押し寄せてきました。

停泊していた多くの船の碇やとも綱は切れ、川の流れは猛烈な勢いで逆流し、安治川橋、亀井橋、高橋、水分橋、汐見橋、住吉橋などはすべて崩れ落ちました。道頓堀に架かる大黒橋をはじめ、いたる所で大型船が横転し川をせき止め、町は水浸しとなり、救助もままならず多くの犠牲者を出したと記録されています。

●碑に刻まれた碑文の写しと、読みやすい現代語に訳した看板

同じ過ちを繰り返さないために——先人の警鐘を次世代の防災に役立てる

「大地震の時は津波が起こる心配があるので、舟に乗ってはいけない。家が崩れて出火もあるので、火の用心が肝要。貴重品はいつでも持ち出せるように…」と、災害に対する備えの重要性が、碑には記されています。多数の犠牲者を出したにもかかわらず繰り返された悲劇を、二度と起こしてはならないとする当時の人々の気持ちが痛いほど伝わってきます。

この碑の意味を語り継ぐべく、地元の人々は毎年、地蔵盆の前に墨入れを行っています。こうした行為自体が、「願わくは心ある人、年々判読が難しくなる文字を読みやすくするため、墨を入れるように」という碑文の精神の伝承なのです。石碑の周囲に彫られた先人のメッセージは、時を越えて、現代に生きる私たちへの警鐘となっています。長年、この碑を守り続けてきた幸町町内会の皆さんは、「こうした災害の恐ろしさを一人でも多くの若い世代に伝え、将来の防災に役立ててもらうことが、我々の努めです。もっと大阪市や周辺の学校と協力して、防災意識を高める教育のお手伝いができれば嬉しいですね」と声を揃えます。読者の皆さんも、大阪ドームでの野球観戦やイベント鑑賞にお出かけの際は、ぜひ立ち寄ってみてください。街の防災について考える、いい機会になるのではないでしょうか。

所在地：浪速区幸町3丁目9番　JR、地下鉄最寄り駅下車、徒歩4分

取材協力：幸町 会長 愛知 寛久雄さん　副会長 奥田 利弘さん
副会長 安岡 篤さん　増井 健蔵さん

記念碑の界隈では開通が待たれる「西大阪延伸線」

今回取材した「大地震両川口津浪記の碑」界隈では、堤防の耐震補強工事とともに、2009年（平成21年）の開業に向けて、阪神・西九条駅と近鉄・難波駅間を結ぶ3.4kmの「西大阪延伸線」の整備が進行中です。新設される3駅は、大阪市営地下鉄、JR、私鉄と連絡し、さらに便利な交通ネットワークが形成されます。碑の真下を新路線が通る未来に思いを馳せながら、数年後の完成を見守りたいと思います。

災害の恐ろしさを次世代に伝え、将来の防災に役立ててもらうことを願って毎年、碑に彫られた文字に墨を入れるのは、先祖代々この碑を守ってきた増井健蔵さん。丁寧な塗り直し作業は、2行で約1時間もかかるそうです。

100万人の市民現場見学会 関西空港2期空港島 イベント

みらい100見伝 100万人の市民現場見学会

関空2期空港島に、こつ然と現れた4ヘクタールの巨大迷路

恒例となったイベント『みんなでつくろう空港島』が8月27日に開催されました。今回、当協会関西支部では巨大迷路と、46tのダンプトラックを目印としたスタンプラリーをメインに設置。工事で使われる重機の試乗や、スーパーボールすくい、テトラポットの森でのお絵かきコーナーなどを設けました。また、日本の土木遺産を紹介する展示パネルコーナーも好評でした。

カラリとした晴天のもと、今回もたくさんの親子連れの方々が、夏休み最後の週末を愉しく過ごされていました。

ご来場者は全体で12,100名にものぼっています。共催にあたっては、関係各位の多くのご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。